

龍ヶ崎に生きる野生動物たち 2024

龍ヶ崎市民環境会議自然環境部会

龍ヶ崎市民環境会議自然環境部会のご紹介

会員随時募集



市内にある森林を里山として再生し、動植物が住みやすい自然環境作りに取り組んでいます。

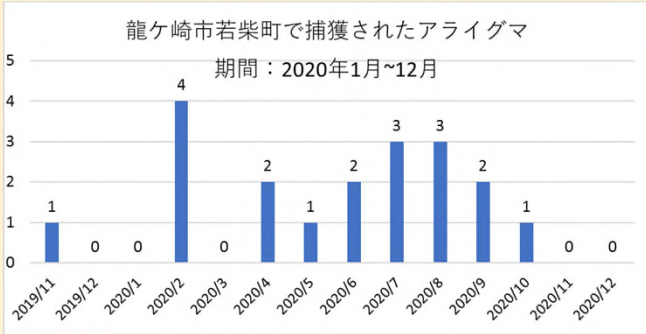
野生動物観察

里山の近くにトレイルカメラ（赤外、可視）を仕掛け動物を観察しました。2020年1月には龍ヶ崎市ではじめてシカが確認されました。茨城県は国内唯一のニホンジカ非生息地域でしたが、2019年に県北で百年ぶりに確認されています。県南での確認は初めてです。

里山で観察された動物



図 観察地点の大羽谷津



夜は動物の活動天国

トレイルカメラには大羽谷津に棲む動物や野鳥が写っていました。昼は野鳥、夜は動物が。鳥は昼にしか活動しないと思っていましたが、赤外線カメラには夜に活動する野鳥がたくさん写っていました。



アライグマは特定外来生物

撮影場所では毎年多くのアライグマが捕獲されています。2020年に18頭捕獲されました。

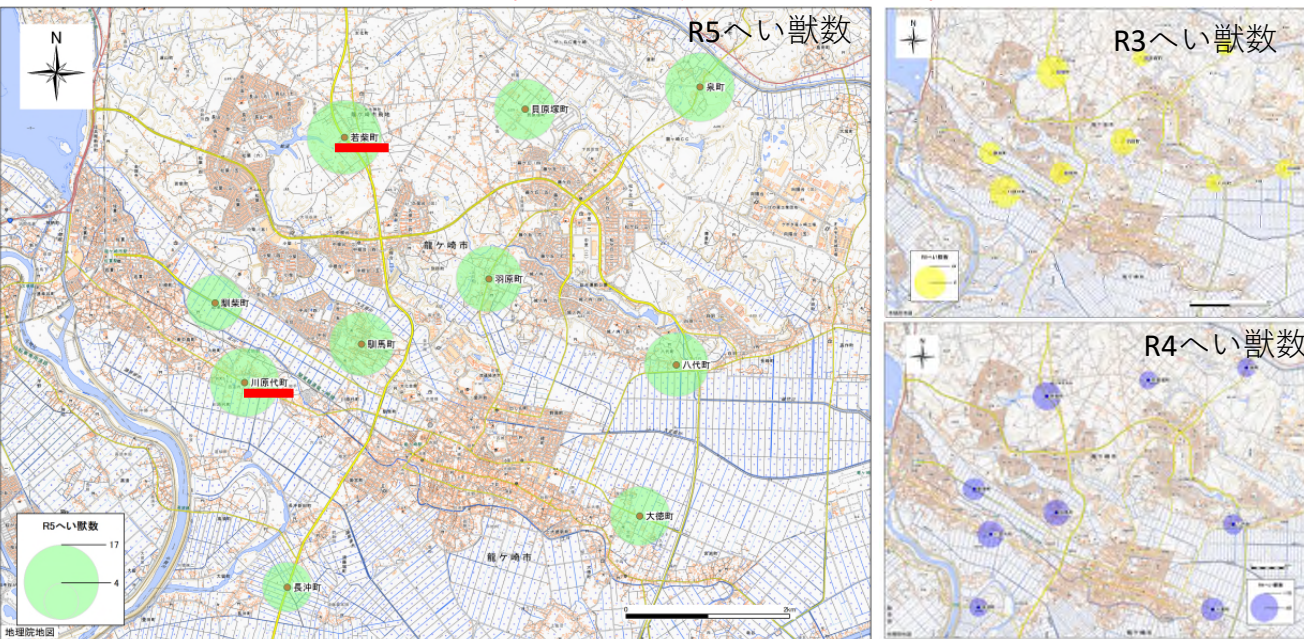


図 タヌキ(左)とアライグマ(右)の特徴(茨城県)

龍ヶ崎市に暮らす野生動物生息数の推定

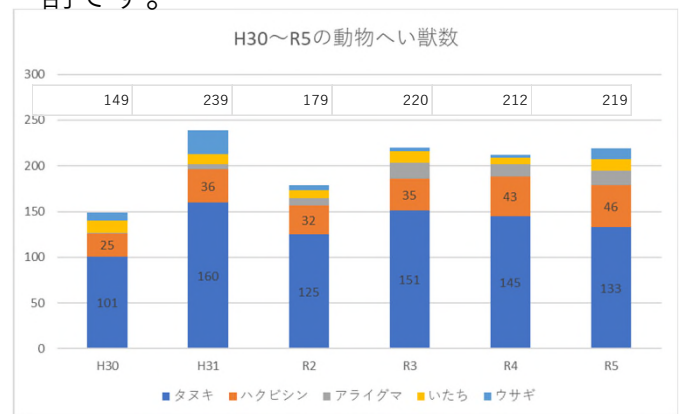
市内の道路では多くの野生動物が交通事故で死亡しています。死んだ動物をへい獣と言います。その数から市内の野生動物生息数が推定できます。(データ：龍ヶ崎市生活環境課)

若柴町が3年連続トップ、2位は川原代町



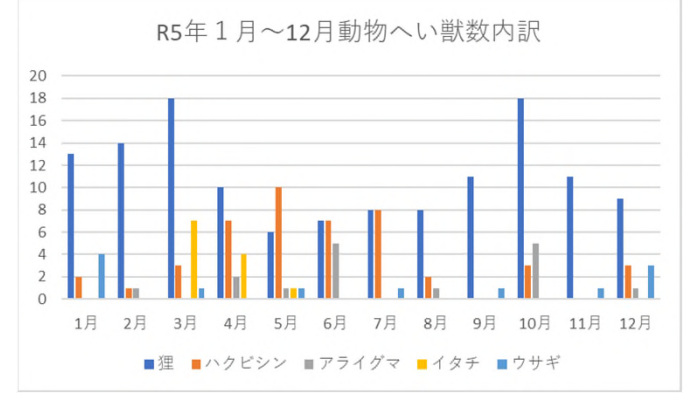
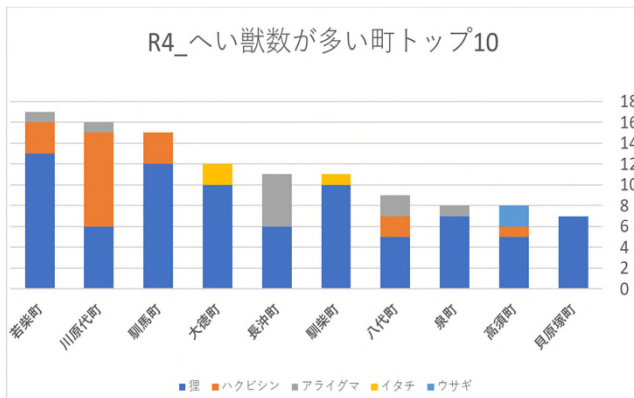
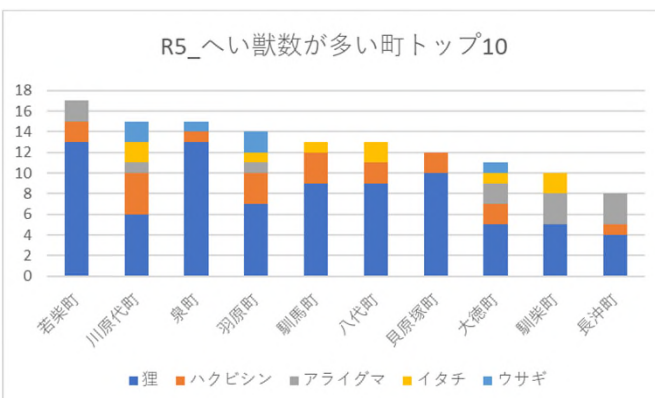
へい獣数は毎年200匹前後

H30～R5のへい獣数は、H30を除いて毎年200匹前後です。内訳は、タヌキが7割です。



タヌキは秋から冬に活動、ハクビシン、アライグマは夏に活動

月別へい獣数から活発に動く時期が推定できます。



龍ヶ崎の自然を楽しむ 2024

龍ヶ崎市民環境会議自然環境部会

会員随時募集

龍ヶ崎市民環境会議自然環境部会のご紹介

市内にある森林を里山として再生し、動植物が住みやすい自然環境作りに取り組んでいます。



カブトムシ里親活動

自然環境部会は、蛇沼公園や周辺の里山を整備し、落ち葉を集めてカブトムシ産卵床を作り、羽化したカブトムシの幼虫を配布するカブトムシの里親イベントを行っています。



写真 2022年生育調査

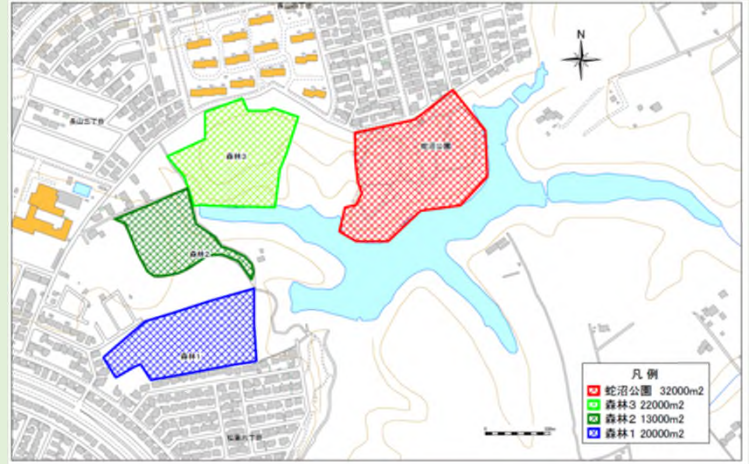


図 里山活動エリア

カブトムシが子供を産んで育てる場所をつくる



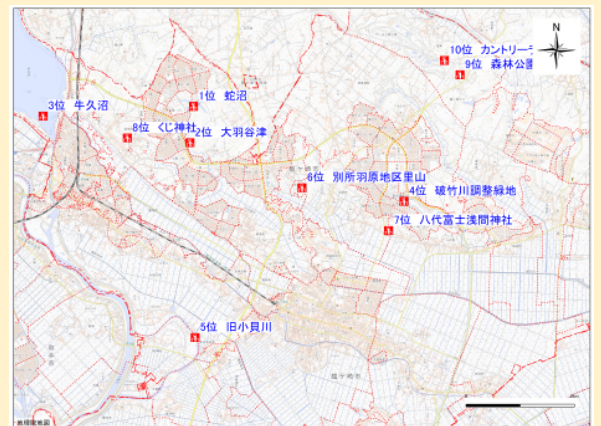
カブトムシのいっしょう



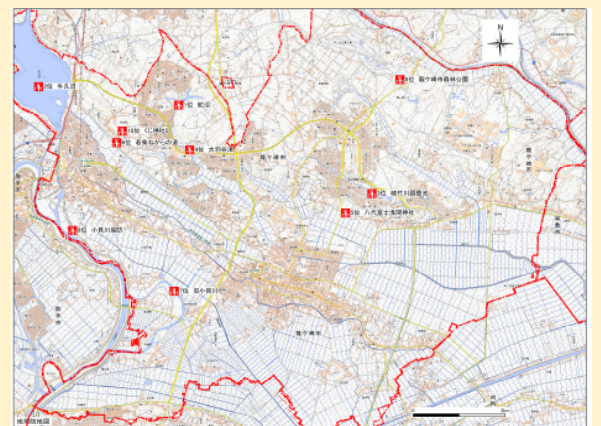
「龍ヶ崎市の自然10選」(令和5年版:R6.3.31)

龍ヶ崎市の自然を自然環境部会が独断と偏見で10カ所選びました。選定基準は、自然度・景観・癒し度です。龍ヶ崎市の移り行く自然を毎年選んでいきます。

順位	選定リスト	写真	解説	順位	選定リスト	写真	解説
1	蛇沼と蛇沼公園		季節の表情を映し出す園内をゆっくり流れる小川や湿地帯など、自然の姿を多く残した憩いの場として、市民に愛される龍ヶ崎市の代表的な公園の1つです。公園入口から続く散策路の奥には、雲遊気のあるレンガ造りのアーチがあり、蛇沼へと散策ができます。公園施設には、野鳥観察舎や遊具のある広場があり、天気の良い日には、家族連れやグループで楽しむ姿が多く見られます。	6	若葉ねがらの道		龍ヶ崎市の台地と「台の下」と呼ばれる低地をつなぐ斜面林を通り、美しい景色と伝説的な場所が点在しています。ねがらとは「根がはびこる」という意味で、台地下に沿った道に付けられた名前です。藪橋が崩壊し、伸びた木々がトンネルのように覆っています。
2	牛久沼		牛久沼は、水辺を貫通する龍ヶ崎市の他、牛久市、つくば市、取手市、つくばみらい市の5市に囲まれた6.5km ² に及ぶ茨城県南に位置する広大な沼。周囲には美しい自然が多く、キジ、カワウ、カモ、白鳥など水鳥たちの楽園となっています。年間を通して、四季折々の豊かな表情に魅せられた人々が数多くこの地を訪ねますが、伝説の河童を好んで描いた画家小川宇秋、1橋のない川」の住井すゑなどの文化人が活躍した場としても有名です。また、牛久沼湖畔は、うなぎ発祥の地としてよく知られており、美味しいうなぎが堪能できる老舗が軒を連ね、「うなぎ街道」として大変人気があります。	7	旧小貝川		旧小貝川は、絶好の釣り場へブルーネ、マブナをはじめ、コイやヤマメなども釣れ、一年中釣り客で賑わっています。旧小貝川は三日月瀬で、小貝川の本流が通っていた所です。
3	破竹川調整池		破竹川調整池を含む龍ヶ崎公園は、ニュータウン龍ヶ崎地区のオアシスです。平成12年11月には、ミレニアム記念の桜の木を植樹しました。既存のものを500本ばかりの桜が開花するのは数年後のことでしょうか。海拔41メートルの立つの子山が、この龍ヶ崎公園のシンボルです。	8	龍ヶ崎市森林公園		龍ヶ崎市森林公園は、針葉樹の森の中に建つログハウス・キャビンハウスやテントサイトがあり、気軽にアウトドアレジャーが楽しめます。公園内には一般遊具の他、アスレチック遊具も備えており、家族連れやグループでのレジャーに最適です。市民が自然と親しむスゴ、シラカシ林で憩いの場として昭和61年に整備された公園です。
4	大羽谷津		龍ヶ崎市の大羽谷津は、龍ヶ崎市の北西部に位置しています。この地区は江戸時代には水戸街道の宿場町として栄え、現在は人口約2,500人ほどの一地区となっています。「うなぎを食べない村」や昔ながらの表情に魅せられた人々が数多くこの地を訪ねますが、伝説の河童を好んで描いた画家小川宇秋、1橋のない川」の住井すゑなどの文化人が活躍した場としても有名です。また、牛久沼湖畔は、うなぎ発祥の地としてよく知られており、美味しいうなぎが堪能できる老舗が軒を連ね、「うなぎ街道」として大変人気があります。	9	小貝川堤防		古くは小貝川、菟川と表記され、前井川、幸田川の別名を持ちます。バス釣りのポイントとしても有名で、釣り雑誌などでよく取り上げられます。下流はかつて下流堤と常陸国(鹿嶋藩領)の手荒原と茨城県、後に千葉県の利根川(北茨城県に編入)の境となっていました。頻りに洪水を起こす「暴れ川」として知られます。また、かつての河津が蛇行を繰り返していたことから、流城には三日月瀬が点在しています。下流部は小貝川低地と呼ばれる低地で、筑波・稲敷台地(常陸台地)の末端の海入部には牛久沼があります。
5	八代富士浅間神社		富士浅間神社は社伝によると、鎌倉時代の正治2年(1200年)の創建で、駿河国富士郡浅間神社の神像を折半してご神体として祀り、五穀豊穡・嬰兒生育を祈願したと伝えられています。1571年に再興され、城主・土統治実によって本殿が再建されました。	10	くじ神社		若葉ではかつて、独自の家が歴々の隣に氏神様を祀っていました。この岡はT家の氏神様で、地区の人々から「クジ」神社と呼ばれています。断片的ですが下記の言い伝えがあります。クジ神様はT家の氏神様で、クジ(進)の神様でした。現在も地元の人々からクジ進の神様と信じられ、受験生たちが「高合格」と、杓文字に願い事を書いて奉納しています。



令和4年度版自然10選



令和5年度版自然10選